

中小、SDGs推進で連携

都内新製品開発へ勉強会

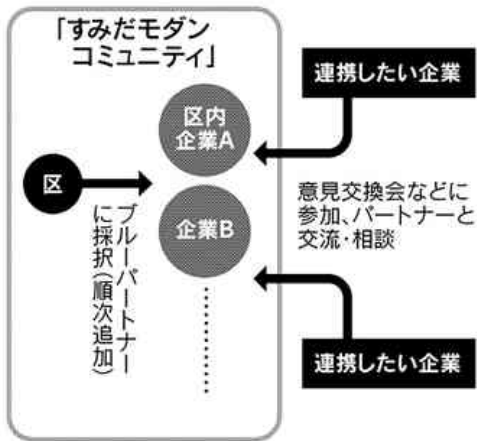
東京都内の中小企業がSDGs（持続可能な開発目標）に沿った新製品・サービス開発に向けた連携を始めた。江戸川区では約20社が事業展開の可能性を探る勉強会を立ち上げたほか、墨田区は有力中小を中心にコミュニティづくりと製品開発を促すなど自治体も支援に動いている。世界で注目が集まるSDGsをテコに地域産業の強化を図る。

江戸川区の中小企業は座談会を開いてSDGsに向けた活動を検討している



製造業・建設業など 地域産業の強化めざす

墨田区の区内企業コミュニティづくり



江戸川区では区内の製造業や建設業などの中小企業が9月、「SDGs座談会」を立ち上げた。個別事業者のSDGsに関連した活動の紹介や意見交換を通じて、経営基盤の強化や新製品・サービス開発、異分野連携の参考にしてもらう狙いで、月1回のペースで会合を開いていく予定だ。これまでの会合では、金属加工の西川精機製作所が本業の合間に手がけてきた障害者用スポーツ器具開発や、建築会社などで今後さらに減る可能性

江川氏では区内の製造業や建設業などの中小企業が9月、「SDGs座談会」を立ち上げた。個別事業者のSDGsに関連した活動の紹介や意見交換を通じて、経営基盤の強化や新製品・サービス開発、異分野連携の参考にしてもらう狙いで、月1回のペースで会合を開いていく予定だ。これまでの会合では、金属加工の西川精機製作所が本業の合間に手がけてきた障害者用スポーツ器具開発や、建築会社などで今後さらに減る可能性

性がある。生活や消費の場面で意識されるようになったSDGsを地域の産業活性化につなげようと、西川精機製作所の西川喜久代表が座談会立ち上げを呼びかけた。西川氏はSDGsを江戸川の産業の特色として打ち出していきたい考えで、座談会の企画企業との事業連携強化も模索している。西川氏は「区内の事業者がSDGsで持続的に収益を生み出せる状況に持っていきたい」と話す。

区も中小企業のSDGs推進を後押ししている。21年度には誰もが働きたい労働環境の整備や地域への貢献など、区独自の基準を達成した企業への低利融資制度を創設した。企業が負担する信用保証料は区が全額補助する。融資はSDGs関連の取り組みにかかる費用や設備投資に充てられる。

区内の企業などがSDGs関連の活動をする際に区に申請すれば無料で使えるシンボルマークも作成した。斉藤猛区長は「22年は関連施策を広げていきたい」と話す。

墨田区もSDGsや多様性を重視した活動に取り組む区内企業のコミュニティづくりを進めていく。活動を主導する企業を「すみだモダンブルーパートナー」に採択し、パートナーと連携したい企業を募る。

9月には第1期パートナーとして革の端切れを活用する紳士靴メーカー、ヒロカワ製靴や宇宙ごみの回収事業を手がけるアストロスケールホールディングスなど6社を採択した。コミュニティでは意見交換会や勉強会を開いて異分野連携などを促す。

ほかにクリエイティブディレクターとコラボした商品開発も進める。22年初めから本格的に取り組み、3年後をメドに販売を始めたい考えだ。